

track1

こんにちは。

中学受験情報局「かしこい塾の使い方」西村則康です。

お母さんがお子さんにかけてあげる言葉は、たった一言でやる気をなくさせ、受験を台無しにすることもできます。また、たった一言でお子さんの成績を飛躍させることもできます。

毒にも特効薬にもなるものです。

私がこれまで32年間見てきた極端な例を少しご紹介したいと思います。

さて、まず悪い例です。

そのお子さんは小4から受験勉強を始めました。

その当初から「あなたは頭が悪いんだから、人の2倍3倍勉強しなければいけない」と言い続けられた例です。わたしが見たところ決して頭が悪くないんですけども、そのようにずーっと言い続けられた結果、どうなったかと言いますと、入試半年前に中学受験をやめてしまうことになってしまいました。

また、家庭内での粗暴な振る舞いも非常に気にかかった例です。

逆に、よい例です。

よい例というものはすべて、家庭全体の明るさを基本にしています。

試験が悪くても、場合によっては合否判定の結果、自体すら悪くても「あなただったら大丈夫」と言い続けられたお母さんがいらっしゃいました。そのお子さんは女子学院に合格し、その後、東大文Iに合格しました。

このCDでは、お母さんに、お子さんとのコミュニケーション術を習得してもらい、お子さんのやる気をかきたて、成績のアップをしていただくことが目的です。

track2

今、中学受験情報局にはたくさんの相談メールが寄せられています。
また、わたし自体も実際のご家庭に伺っての家庭教師をやっていますから、相談の件数が非常に多いのです。
その中で、特に近頃多いご相談、4つお話をさせていただこうと思います。

まず2つは学習のノウハウについてのこと。
そしてもう2つ。心やマインドについてのこと。
というふうにしたいと思います。

まず、学習のノウハウについてですが、
「頑張ってる宿題をやっているのに成績が下がっている」というご相談ごと。
2番目が
「テストでミスが多くて点数が上がらずに困っている」というご相談。

そしてマインドについての2つは、お母さんからのご相談が多いんですが、
「ついイライラしてしまう。そのせいで、親子関係がぎくしゃくしている」というもの。
そして次は子供自身のことですが、
「お子さんが自信を失っているときに何て声掛けをしてあげればいいのかわからない」ということ。

合計この4つについて、その解決策をお話したいと思います。

さて、このCDをお聞きのあなたはいかがですか？
今お悩みをお持ちならば、今、紙に書いてみてください。
書き出していただくことでこれからお話する内容から、必要な情報をスムーズに拾っていただけるようになります。

まず、A4程度の紙をご用意ください。
1つの悩みについて、1枚です。
上の方に悩まれていること。つまり、今のお子様の状態を、下に「こうなってほしい」と思われる理想の状態をお書きください。
そうすると、真ん中が大きく空きますね。
その空きスペースに、今からお話しする内容から「使えそうに感じられたこと」を、どんどん書き込んでいってください。
1度CDを止めてお書きください。
書き込まれましたら、再度スタートボタンを押してください。

track3

それでは、お話を続けさせていただきます。

学習のノウハウの1番目「頑張っているのに成績が下がっている」状態の解決策です。

お子さんの普段の学習の様子はいかがでしょう？

あたふたしていませんか？

このご相談を寄せられるほとんどの場合、お子さんは毎日かなり焦った状態で学習をしています。

いまやっていることに集中できずに、

「これを早く終わらせたら、あれをやらなくちゃ。それが終わったら、あれを。」

というふうに、次々気持ちが先走ってしまっています。

この解決のためには2つのポイントがあります。

1つは、必要な問題と不要な問題の取捨選択。

2つ目は、落ち着いて考えさせることです。

それぞれ、「じゃあどうやってやればいいのか？」と思われるのですが、実は、簡単です。

1番目の問題の取捨選択についてです。

これは、授業中から始まります。

塾の授業中に○△×のチェックをつけさせることから始まります。

○は、簡単に解けて、そしてそれが正解であった問題。つまり、次の試験に同じ問題が出たら必ず正解ができると自信が持てた問題。これには○です。

×は、先生の授業を聞いても、説明を聞いても、よくわからなかった問題。ということになります。

ですから、その△は、その○×両方にあてはまらなかった問題。つまり、正解は出たんだけど、テストに出たとして、解けるかどうか心配だというもの。

また、授業の説明を聞いてなんとかわかった。でもなんとなく自信がない。これも△になります。

この△が次の点数につながる1番近い問題ということになります。

この△のついた問題やその類題を重点的に勉強させると、短期間で点数アップが可能になります。

また、お子様の負担が減ることにもつながります。

ただ、この場合、塾の先生に掛け合って宿題量の調節をお願いする必要があるかもしれません。

このようなこともありますから、塾の先生とは普段からコミュニケーションをしっかりとっておいてください。

さて、このように負担を軽くし、何をやればいいのかをはっきりさせます。

そのあと、2つ目に入っていきます。

落ち着いて考えさせることですね。

そこで、お子さんに「落ち着いて考えなさい」といくら繰り返しても、効果はありませんね。

お子さんにとっては、考えるとはどういうことか、わかっていないんです。

ですから、保護者の方々は、その瞬間瞬間でどう考えればいいのか、具体的に指示することが必要になってきます。このためには、1週間に1~2時間、お子様の勉強に付き合う時間を作っていただく必要があります。

お子さんが問題文を読んで、何かの式を書いたとしましょう。

でそのときに、

「その式で何が出たの？」

「A君の速さ」

とか答えますね。

で、また、その式を計算し終えたとき、
「その数字の単位は？」
と聞いてあげてください。

また、問題を前に固まってしまっているようなら、
「もう一度問題を隅から隅まで読んでごらん。何かに気が付くんじゃない？」
そして読み終わった後で、
「何がわかって、何をきかれているの？」
と声掛けをお願いします。

また途中まで式を書いたあとで立ち止まってしまっているようなら、
「この次に何が出せそう？」
また、
「この次は何を書けば答えに近づけるように感じる？」
と聞いてあげてください。

「この次に何が出せるの？」
「この次に何を書けば答えになるの？」
っていう、脅迫的な言い方は避けてくださいね。

ここまでお聞きになって、鋭い方はすでにお気づきの通り、解き方の説明は全くしていません。
授業で聞いてきた、つまりインプットしてきた内容をお子さん自身が、自分の頭から探し出してくることを手助けしてあげることが大切なのです。
考えることとは、自分の頭の中にある、解き方や知識を見つけ出してくること。
ということになりますから。

どうでしょう？ ご参考になりますでしょうか？

track4

次は、「ミスが多くて点数が上がらない」というご相談ごとについてのご回答です。
これは近年非常に多くなったご相談です。
多分なのですが、近年大手塾での宿題が非常に多くなっています。
落ち着いた勉強がやりにくくなったことに関係があるように感じています。

そこでこのミスについてなんですが、まずやっていただきたいのはそのミスの分類です。
計算ミスという単純ミスなのか、それとも読み取りミスや勘違いから起きていることなのか。
という分類をまずしてみてください。

まず計算ミスが多いと思われる場合に、1 番目。
ノートに書かれた数字と、問題用紙の余白に書かれた数字が、大きく違うか、もしくはほとんど同じなのかを見て
ください。

問題用紙に残った数字があまりにも乱雑、または読みにくい。とか、また大きな字で書かれていたり、また小さ
なったりというように、字のバランスがとれていない。ということがわかりましたら、これはテストのときに非常に特殊
な気持ちで、計算をしているということの表れになります。

ですから、テストのときにあわてないという、その気持ちの持ちようを作っていく必要があります。
ただ、「落ち着いて計算しなさい」は、お子さんには通用しません。
まず形から入っていただくのが一番いいと思います。
そのためには、「少し小さめの、同じような大きさの字で計算していきなさい」という風に言い続けていただくこと
が効果的です。

そしてその次、問題用紙の空きスペースを上手に利用できているかどうか、これもチェックしてみてください。
計算した後にまた計算をして、数字の上にまた数字が重なってくる。
また、せっかく計算したものを一度消してしまった、その上にまた計算をしている。
これは空きスペースをどのように利用していこうかという、その気持ちがないことの表れです。
ですから、この辺りにはこういう計算を、この辺りにはこういう式を、というふうに、その空きスペースの利用の仕方
を事前に工夫するような、意識を植え付けることが必要です。

これは、解き直しのときに、
「ああ、この程度の量だったら、ここに計算ができたね」
また、
「この辺りであれば、次のページに計算すればよかったね」
というふうな話を、常にしていただくことが効果的です。

そして、低学年で多いのが、実は特定の数字で間違えるということがあります。
たとえば $15-7$ での間違いが多いとか、という場合ですね。
その場合に、何が効果的かといいますと、なんと百ます計算に戻ること。ということが言えます。
意外に実はこれが多いんです。
ただ、これはあまりにやりすぎるとよくないですね。せいぜい 1 週間 2 週間の課題というふうにお考えください。

そして、その逆に今度は高学年特有のミスです。特に、小6 特有なんですね。
これは何かといいますと、分数計算に慣れ親しんだ、非常に計算力のある子が、実は割り算の中の引き算で
間違えるということが多くなります。
その場合には、やはり、割り算を中心としたひっ算の訓練に戻られることが必要です。

5年生までは、小数で掛け算割り算を多用していきます。

ところが、6年生になると、小数の掛け算割り算がほとんどなくなり、その代わりに分数計算で整数だけの計算に入っていきます。それにあまりにも慣れすぎた場合に、割り算の中での引き算で間違えることになりますから、意識的に3桁もしくは4桁の割り算訓練を重ねていくことをお勧めします。

そしてこの計算のミスについて近頃ちらほら出始めているのが、暗算はどの程度やっていいのか、というご質問です。

実は、暗算をするために、ミスが増えるということが非常に多くなっています。

これはかなり焦って問題を解くということにも関係があります。

暗算で正確な計算ができるお子さんはいいのですが、基本的には、2桁×1桁 までは暗算でもいいけれども、2桁×2桁 あたりでは、ちゃんとひっ算をするという習慣が必要になってきます。

そして、意外な盲点となっているのが、そろばんの練習をかなりやってきたお子さんの暗算です。

そろばんでは、暗算もあります。

ところが、3級程度の力で、珠算の暗算をしようとすると、10問20問やっていく中で、必ず2~3個のミスが生じます。でもこのミスの割合は入試問題、または模擬試験の問題を解く上において、致命的なミスということになります。

ですから、珠算の暗算をしていいレベルというのが、1級以上だとお考えください。

2級3級の場合には、珠算の暗算は利用させないということをお母さんの方からきっちりご指示いただくのがいいと思います。

そしてその次ですね。

読み取りミスや勘違いが多い。

これが、たまたまそうだという場合にはいいのですが、連続2回、もしくは連続3回、同じような読み取りミスや勘違いがあるというお子さんの場合、ミスは起こるべくして起きたというふうに思われるべきです。

ですから、「家で解き直しをさせると、簡単に解いてしまうのに」というふうに思われる場合も、きっちとしたミス対策が必要になってきます。

で、そのようなお子さんの場合、一度問題文の読み方をチェックされることをお勧めします。

これは、どうすることなのかといいますと、お子さんが問題を読んでいる。その前にお座りになって、低い位置からお子さんの視線の動きをチェックしてみてください。

意外に、問題文が5行もあるのに、目が2往復しかしない、とか、もしくは国語の長文を読む場合に、親がまだ読み切っていないのに、お子さんがもう問いの問題を解こうとしている、というふうなことが発見できるかもしれません。

そういう場合には、不完全な速読状態になっていると考えられます。

そしてそのようなお子さん特有の読み飛ばしは、まず1行目、そして、最後の方の「ただし、」以降の説明、これを読み飛ばしていることが非常に多いということが経験上わかっています。

ですから、評語としては、「問題文を全部読み終えてから解く」ということを言っていた方がいいと思いますし、それを紙にお子さんに書かせて、机の前に貼っておくというのにも効果があります。

で、この習慣はテストのときだけ発揮させようとしても無理ですから、家庭学習においても常にこの習慣を、身に付けさせるように話しかけてあげることが必要です。

ここでの、効果的な声掛けは、前の説明と同じなんです、

「何がわかって、何がきかれているの?」

です。

実は、この声掛けをしたときに、お子さんがほとんどの場合、もう一度問題文を読み返してくれます。で、その時には不完全な速読ではなく、そのお母さんお父さんの問いかけに対して答えようとする意識が働きますから、問題文を間違いなく最初から最後まで読んでくれます。

このようにやっていただければ、読み飛ばしというのは、ぐっと減っていくことになります。

そして、少し前に、計算においてはノートに書かれた数字と、問題用紙に書かれた数字の、字の違いを見て下さいというように言いました。

実は文章題においても同じ点でチェックしていただくことが必要になってくることもあります。

たとえば、ノートには、線分図や面積図や天びん、その他の図がきっちり書いてあって、そしてその下に式がまた書かれている、というにもかかわらず、テストの問題用紙の方にはただ単に計算しか残っていない。

というお子さんの場合に、ミスが非常に多いことがあります。

この場合には、精神的な気持ちの問題というふうにも考えることもできますし、また、テストのときと、また家庭学習のときとでの習慣の違いというふうにも考えることができます。

「テストのときにも、まず式を書いてから計算を始めましょうね」

もしくは、

「テストのときにも、同じように線分図ならば線分図。面積図ならば面積図を書いてからやりましょうね」

というそのような指示をずっと続けてください。

ただ、ここで問題が1つ生じます。

といいますのは、日能研・早アカ・四谷大塚、この3塾については、テスト問題の空きスペースが大きいために、今のように図を書いて式を書いて計算も残すということが意外にたやすくできます。

が、SAPIXのマンスリーテスト、もしくは、組み分け試験においては、空きスペースが少ないんですね。

その場合には、そのスペースどり、これが非常に難しくなります。

ですからテストのときには、意識的に小さめの数字で書いていくという習慣も必要になってきますので、その辺り、親御様の目の前で少し練習させるということも、必要になってきます。

いかがでしょうか？

ご参考になりますでしょうか。

track5

次のお話です。

「ついイライラしてしまう。そのせいで、親子関係がぎくしゃくしている」というご相談についての回答です。親御様はお子様との距離が近いために、どうしても子どもの欠点に目がいってしまいます。また、期待値が高いほど、現実と理想とのギャップに苛立たれることが多くなります。

この解決策の1つです。

それは、「えー。そんなことでいいの!?!」と思われるでしょうが、実は、それが大切な第一歩なのです。それは何かといいますと、理想的な親が、必ずしも理想的な子供を育てられるわけではなく、欠点を少しぐらい持った親でも大丈夫。とお考えいただくことです。

一番危険なのは、理想の親を目指すあまり、日々のストレスが高まって、それが子供に対してのイライラを高めてしまうことです。

このような、お気持ちを持たれて、少し肩の力が抜けたところで、次の話をお聞きます。

実は、言葉の選び方というのが、非常に重要になってきます。

簡単に言いますと、否定語は使わない。すべて肯定語を使うということになります。

「～しちゃダメよ」ではなく、「～しようね」という言い方ですね。

ですから、「～してると、～になっちゃうよ」ではなく、「～していると、～な、よいことが起きそうね」という言い方です。

たとえば、

「そんな雑な字で書いているからミスばかりなのよ」

ではなく、

「少し丁寧な字で書くとミスが減るわよ。あなただったらできるとお母さんは思っているんだけど」

というように、変えていただくことです。

否定語を使っていると、子供の中に実は嫌なイメージが膨らんでいきます。

つまりそうなってしまった酷い自分を想像してしまうわけです。

その結果、お子さんの中にイライラが高まっていきます。

そのことが親子喧嘩の原因、つまり、売り言葉に買い言葉ということになっていきます。

逆に、肯定語をたくさん使ってお話しをされると、小さなことでも、何か成功の予感みたいなものを子供自身が感じ始めます。

そのことで、「少しやってみようかな」という意識が働き始めます。

さて、とは言いましても、日々の生活の中でお子さんとの関係の中でどうしてもイライラして、「もう爆発しそうだ」というときも、あるかと思えます。そのときの特効薬を少しお話ししたいと思います。

それを実は10秒ルールと申します。

これは10秒でもいいですし、場合によっては5秒でも6秒でも、結構です。

その10秒もしくは5秒6秒の間に何をするかといいますと、その間は、爆発を何とか抑える。何もしゃべらない。

で、その時にお子さんの様子をじーっと、10秒間見ておく。

ということだけなんです。

実は、その間にお母さんの頭の中で色々なイメージが湧き上がっては消え、湧きあがっては消え、ということを繰り返すはずなんです。

たとえば、

「ああ、この子も、毎日勉強で大変なんだわ」

っていう気持ちがおきたり、また、

「この子なりに、点数が悪いことを非常に気にしてるんだわ」

っていうことをお感じになったり。

という中で、その次にお母さんがかける言葉が違ってきます。

言葉自体が違わないとしても、口調、もしくは声の強さ・弱さが変わってくるはずです。

そのようにして、お母さんの気持ちを少し沈めていただく。

それから発せられた言葉は、ほとんどの場合、お子さんはちゃんと聞いてくれるものです。

少し、ご参考にしていただければと思います。

track6

次に、「自信を失っているときに、何て声掛けをしてあげればいいのかわからない」というご相談についての、返答です。

これは、勉強のときだけ励ましても効果はありません。

1日の流れの中で子どもを元気づけ、励ますことが大切です。

シーン別に考えてみましょう。

朝です。「おはよう！」と明るく声をかけてあげてください。

お母さんの明るい表情がポイントです。

また、朝起きてから、すぐに果物や果物のジュースを飲ませることも効果的です。

ジュースに含まれている果糖によって、大脳が働きやすくなります。

そして、食事中です。勉強から少し離れて、別の話題を振ってみてください。

友達のこと、親戚のこと、近頃のニュース、なんでも構いません。明るい食卓が理想です。

そして、就寝前です。

実は、寝る前の行動や言動が、翌日の寝起きに大きく作用しますから、ケンカで1日が終わるといけないように、くれぐれもご注意ください。お母さんに必要なのは、労いです。

「今日はよく頑張ったね」

という声掛けでもいいでしょうし、もし頑張っていないとしても、

「頑張ろうと努力してたね」

という労いでも構いません。

そしてまた、お母さん自身も、自分自身の労いを、忘れずをお願いします。

お母さん自身も、「今日は子供のことについて、一生懸命声をかけたり、また、怒りたいことをぐっと我慢した。私はエラかった」というお母さん自身の労いをお願いします。

そして、あと、今からいうことが一番のポイントになるんですが、学校から帰ってきたっていう帰宅時、また塾から帰ってきたっていう帰宅時。ここがポイントになります。

ここでも明るく、「おかえり」と言ってください。

そして、塾から帰ってきたときに、いきなり

「今日のチェックテストはどうだったの？」

は避けてくださいね。

そうではなく、

「おかえり。今日は寒かったね。風邪ひかなかった？」

っていう、優しい言葉かけからお願いします。

そして、塾から帰ってきて、すぐに自分の勉強部屋に行かせるのではなく、

「今日の授業よくわかった？」

というふうに、優しく聞くことから始めてあげてください。

そして、お子さん自身が「よくわかった」とおっしゃる場合も、「難しくあまりわからなかった」とおっしゃる場合も、その後の行動は同じです。

「それじゃ、授業の中でわかった問題3つぐらい、お母さんにちょっと教えてくれる？」

という風に、お子さんを先生役に、お母さんが生徒役になる。そういう機会を設けてください。

そこでたとえば、授業中のノートを出す。そしてお子さんに説明させていく。

「これがね、こうなってね。だからA君の速さがこうわかって、だからその差で割ると…」

なんていう説明をし始めると思います。

そのときに、お母さんは、

「よく聞いてきたね」

「難しい問題なのによくわかったね」

「頑張っけて聞いてきたのね」

ということ、ずっと言い続けてください。

お子さん自体がやる気をなくしている、自信を失っているというときには、お子さん自体が理想としている自分と、現実の自分とのギャップに悩んでいるわけです。

ですから、「いまの自分がいいんだ」「いまの自分でOKだ」ということをお子さん自体が自覚できること、ここから復活が始まります。

ですから、実際にお子さんを先生役にして、お母さんが生徒役になって、そこでお母さんに勇気づけてもらう。

で、授業の聞き方が間違っけてなかった、授業の理解の仕方が間違っけてなかったっていうことをお子さん自体が自覚することで、その部分からお子さんは復活をし始めていきます。

そして、いま言いました、お子さんが先生役となって説明するというのは、実は、学習面においてもものすごく大きな効果を発揮します。

人から説明を聞いたものについては、実は一晩寝るとほとんど忘れるんですね。

ものの本には、70何%が忘れてしまうと書いてありました。

ところが、自分で説明したもの、自分が誰かに教えてあげたものについては、ほとんど忘れないそうです。

で、これは、親御様自身の経験もたぶんそうだと思うんです。

というふうにして、勇気づけるためにも、お子さんの知識の定着をはかるためにも、そのように、お子さんを先生役にするという機会を設けてください。

そのために、大きなホワイトボードを家を買って、そのホワイトボードでまさにお子さんが先生役となって、説明するという場を設けてらっしゃるといご家庭もありました。

そういうお子さんの場合には、ほとんどの場合、成績が上位となっています。

さて、このようにいま4つのことをお話していききました。

わたしどもがこのように考え、このようなものをお出しているのが何かといいますと、中学受験を通して、家族全員が成長して、そして、より明るいご家庭になっていただくこと。これを願っているからです。

今日のお話4つが、皆様方のお役にたてれば幸いに考えています。

さて、今日は、4つのご相談ごとについての回答を話させていただきました。

中学受験を通して、明るい家庭。また、効果的な学習の役に立てれば、わたしたちは非常に嬉しく思います。